

## 低コストのゴミ処理施設

### 灰をスラグ化し建材利用

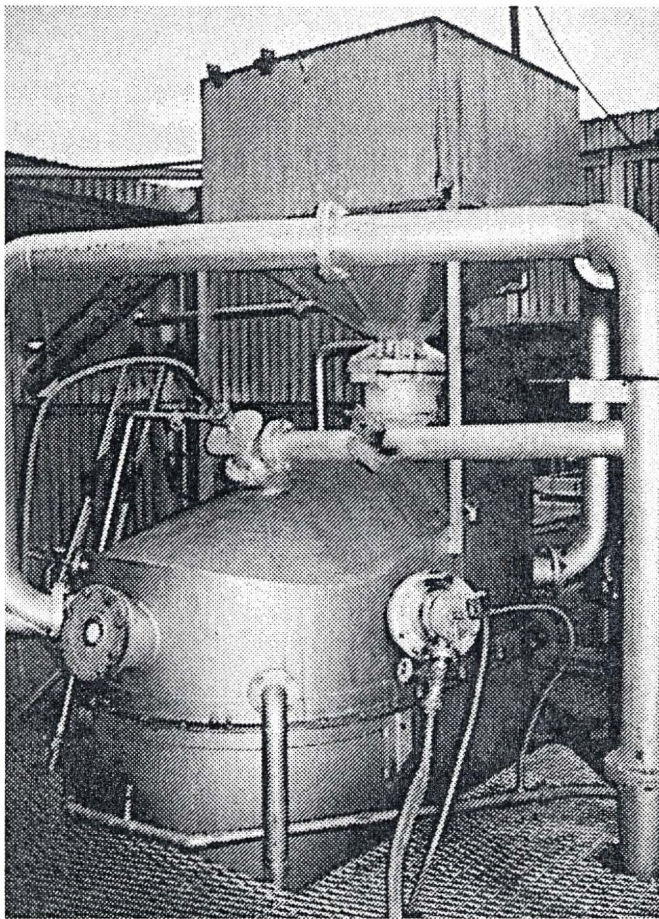
日本環境保全

日本環境保全(本社・茨城県牛久市、杉山静素社長)は、小型で低コストのごみ処理システム「JBO-021」を開発した。システムは、既存の焼却炉と比べて価格が三分の一で、焼却灰を溶融炉でスラグにすることによって、建材・骨材にも利用できる。茨城県鹿島町に納入することが内定している。

システムは、冷蔵庫・テレビ・自転車などを焼却する粗大ごみ焼却炉、建築用ビニール・ゴム製品のタイヤ・ゴム類焼却炉、生ごみのロータリーキルン式焼却炉、焼却灰を処理する超小型溶融炉、排煙処理装置で構成。処理能力が日量五〇トのシステムで、価格は十六億円前後となる。溶融炉は、バーナーで焼却

灰を二、七〇〇度に熱し、溶融物を二〇―三〇度の水で急速に冷却することで、〇・五―二・五ミリの大きさで硬度八〇―九〇のスラグを生成する。スラグは、重金属を含んでいないため、コンクリートブロックの骨材、路盤材などに利用することができる。

溶融炉は、二、三〇〇×五、二〇〇×四、二二〇と小型化を実現、燃料に廃油を使うため灯油・重油の溶融炉と比べて約五割のコストで処理することができる。排煙に含まれる有害物は、茨城県公害防止協会の検査で、基準値の一〇分の一であることが証明されている。日量五〇トを処理するシステムに必要な敷地面積は、三三〇―四〇〇平方メートルで、地下



焼却灰を溶融する炉の上部

に焼却施設を埋設すれば、景観の向上、土地の有効利用に役立つ。溶融炉は、焼却灰を五分の一に減量することがで

きる。鹿島町には、超小型溶融炉とロータリーキルン式焼却炉四基を納入する。三十七億円

で見積もりを提出、今夏の設置完了を予定している。問い合わせは、同社・電話〇二九七―七四一四三五一。

#### ご注意

過去に当社が原情報を著作した新聞・雑誌等の記事は、画面上の閲覧のみが可能です。これら記事は過去に公開されたものですが、現状で利用する際には著作権等が発生する場合があります。利用をご検討の方は当社にご相談願います。

日本環境保全株式会社